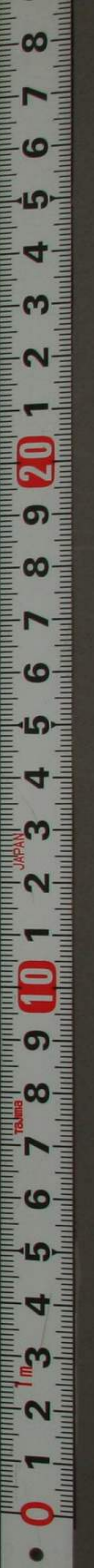




花傳書

五

手多
1544
4



門多12
1544
巻



これ終とつあ事一夫史坂花の志んよたとく
役者を下まよくとつあ也夫史一屋乃大の
屯此志んあまといつあもく下草うわ威勢乃
あやうよもてあまへしまと大夫うわ下草
相應するやうよんねへし大夫佐藝をうあへ
すして一乃うわまとい花乃志んといあか
よくよろはのんちくろをあき横よいけ
へしまる終とつあ中意ハ地もろき坂中とい
志こて見くあけ進いみとろろあ衣製乃
きやうあめんあけ進いを染みくまね物屯
たとひ上よこわといよあ志こそあ今進い
牙強り屯さきく上中下序被急の終乃

巻五

一

位を初んとして似合ふるやうに思はるる
かんとしうなり

一 天子乃清し奉りいし及きみやくち公家の
侍うんさを作りし能のお立ちしつふもく
きたりくつてしつへきむかんとしうなり

一 女清かういそおのあ上臈乃清風情作りし
能出立乃事しつよもくけさくうつとく
花やうふしあかさの念を入お立ちしつ
うさきいしつおれ成本ときり大内上臈なり
ともうめあとい又位さうわしつ宮女なり
しつへしつおれなりと多玉用也揚考妃を
うらわらば也大夫三十のうちとつてなり

年よりしつていしを斟酌し入しつ此
子あい年うりわさいしつまをら進見入なり
さうしつわさてわしつ時ちりひしやしき
物なりしつ斟酌なる付あきあましつ
あともしつ進見なりあしきあまいしつ能を
斟酌なる

一 物狂乃お立ちしつとあしつわきしつ物狂を國
より来る物狂ちしつしつ國乃物狂のしつ
しつちしつあしつ小神はしつちしつ物狂の
お立ちあしつしつあしつしつしつしつ
物別在揚乃人の衣袂を文しつかしつあしつ
志しつ目しつしつ小神を男なり

一 舞人老人のお立ちのよもくくはかこるひら
あし乃小袖もつともよんさうりあう上り
あくいさきいかなとらへし小袖の色よんり
よえあひんやうよ出ころへし但上の袷染よ
よはへし能よよはへし

一 ひこ面の出立の事しつよもくく下を多くと
おうちりて上をくすも下かさひひ丸あひひ
やうふつしたちんる肝要也古あう人よんり
も身ふ似合ころ小袖あり又ふありぬころて
ありもみあうせうんる也又大夫のと一は
かとくひもよはへし

一 穠僧ひやぶそくすく志がきころあ衣よん

一 一文をむもく僧或は位可の僧みやこりこれ
僧いふもく引けくろひもんころく
水衣小袖をきと志こはをちやくもへし

一 僧部は京阿智梨上人これ僧いふもけたく
為考よひきけくろひつよも水衣もんきと
ころは恙もへし時よんり大口きるるあり
一 茶のせい本れせいそおつんけ乃抽のうらひ
お立ち何とおうちりてもくあしひ

一 鬼のお立ちのよもくく志ゆたかくりきひをも
あつくと出立んるうんまうなわつうおもく
あうくつろくと出立のあり

一 祓のふりきねあかしたういきやろあし下

かきこひいづももしく多くと元あひんえあひ
らやうよつてたち肝要なりうわきぬ多あ
あういづもももしく多くと元あひんえあひ
元傳才七噺の巻なりもいろのちやとあき
所と伝もげ理りなわ

一面のうげやうさゆ弓八幡あとりめハ尉の
面及い目よりゆの入りうらちやき男乃面なわ
さわりあううもきまやそろひうらちいすち此
めんあときふ事ありまちおとこれときい
とくわをを意なるへし

一天冠いづくを能いそう乃物てなわ但菩薩乃
能あういていかんの女面なるへし付くうひ乃
位よりりて又ていかんきぬ菩薩あり

一通小町菴戸あつきうとあうきいつま
具乃やせ男なり但志の内より通小町ハ面の
いもちちうひんそ子細いぶ家也深草のぶお
魚りやつまこころうかまきハ面けたりきを
もちつる也残アハハきききうかとのうき
世乃わきよゆつま死ころうかあれハ面よま
ハねるへし是ハおかきあるちうひ也ハ世乃
終も位を分別し上臈下臈をわきまへる年比
まても分別をとけ似合ころ面可残也衣製乃
きやうも同あなわまこ綿本あまこちう
是ハあまわり下ころうあんこれハ意路よて

死なまきかよひこまらうとふのおひいせ
一 定家ひろきうとまこまらおまのち何もやせ
女なりちあう定家の式子内親王ひめみや
みえまひる君りかええきたくやせうら面
なり卒都婆小町ひろきいあひくやせうら
面志うあうく何もい能き能きはあう称
とも式子内親王はくへかひひろきい
白拍子也ま上とひりなり小町いひめい
宮女あま年老て粗乱とあり食まあまは
女なり海士の娘をいひきういつひの
やせ女あひいあひいあひいあひいあひい
すきまひく目ひい入うら女可然んはらもち

らうまへもわうら
一 草木乃せいそかたけ物のあるひときよらうり
いあうまよりあ志てよらわらわしあうら
あうまうら
一 成古本なり乃志やめん鉄輪あまなり可御
らあひの上の中なり乃志や面むよら
一 せうの面乃舞能いひりまもらうまうひやう
志志うあ
一 やいこ物もて也
一 松風いあうい物もて也
一 鞍馬天狗はへみ也まあくせうきうる事
大い見大あくせうのとんや一日け大事也

お立ちまてちうふへし

一 ううひ昭君は天神なりまてこへしこきる
事一もありさういたう此鬼なりたまのいもち
せうらんもとこへかけら也

一 新神乃ふるいらくあひけ也

一 ふちとのおよやせ女きほるあり又うたれ
面きる時もありたまのこころもちうとちうあ
る一お立ちもすこちうあなり

一 うかまのおあひ乃上のあのおの面のもて
女乃物持もあき一きまてまますまの
あて目もとまこき女面をきる也

一 物ほのあるい終るちうあへしたまの
とをまの女物狂あしあと一ふけしうか
あるらまこる面むよ

一 新波乃梅京ありいたやねとこあてもたう
かありまて破の舞なり余れ度いあくせう
あくほもありあくせうの時いあくよまあ也
お立ちちうあへし

一 さのりあせうなわはまひせうなり
一 とゆるあしひせう也中ね也

一 たむしお童子なりはたやれとこり三ヶ月也
平太いけぬ也田村い祝云乃脩羅なり平太の
祝云ようけぬ面也まき終あまうけらる
大きなるひらこなり

- 一 くのりあわらひせう也故中おなり
- 一 女房屯田あせわらねとくゆーあ〜ひ
- 一 八幡んちりあひら〜ひせうもゆー小尉も
- 一 唐船〜ひは〜ひら〜おとこなり
- 一 平太〜ゆー〜

- 一 つのまき中る也わらおとこゆー〜
- 一 ゆちまき〜めい〜ひせうは〜入る此面
- 一 うめあひら〜ひめんこ物てなり
- 一 あら〜ち〜花めん也

- 一 春日就祿あせう也又ひ〜面よてする〜
- 一 あり小せうよ〜〜後〜ひけなり
- 一 せう〜ん乃あせうは〜〜

五う終集

- 一 遊り柳あひせうは〜〜
- 一 侍殿揚貴妃あひせうは〜大天祿なり〜
- 一 きる事〜もあちあ〜せうも〜
- 一 志〜ひけあひあ〜せうは〜あ〜せう也
- 一 あ〜山〜ひせう也は〜大〜見大天祿
- 一 七可終々
- 一 竹乃音ふ〜い面也哀傷乃祝云なり
- 一 善象のは大〜し〜後大合田あ
- 一 定家のはふ〜ひ面なり
- 一 三輪あふ〜ひめん也こ物もて
- 一 唐船〜ひせうなり
- 一 あら〜き乃あせうなりなせ物〜

巻五

二

- 一 夕うがああふらの女はいあうひめん也
- 一 幾大鼓ふくめんなり
- 一 東も羽あうひせうはあくせう也
- 一 うきあひあ見乃女はふく面なり
- 一 玉うつああふみ乃女は小物もて也
- 一 聖のみやおあまの女はふく面なり
- 一 江口まへあふ面のちういさう也
- 一 お葉うり女面をい何よてもうゆーい
- 一 ていかんまもかを女い無用也乃ち鬼
- 一 ぬえあいやせおとこのちさほとひて也
- 一 やとて髪あひ女は大天祿らあひけ大とひてくゆーい

一 舟舟あとおと物そはい馬う乃面也

あきう知そう乃めんなり

一 う此眼あいに物もてはいていりん也まう哉
 いーくさきい同くひあき面あてい然いこ
 たうまはたもちうあーすーすあ

一 きめん

一 あま乃あふめんなり

一 張良おもせうは大あくせう也

一 尚麻あいうたはていかんなり

一 井はくますかこの面なり

一 えうろもそうなり

一 寢覚のともああうせうは大あくせう見も

すう回お

一 うらぶのおおせうはやせれとこ也

一 をたさくおいあふこの女はい老女れやせ女也

一 依菴次信平太ななり

一 うほひくおいこくひせうのちい平太

一 水鏡の梅くーめあふこ此女はふれもて也

一 自光居士東洋居士大唱食也

一 花月のこりつーきなり

一 千妻ふく面なり

一 ちせを女面つりもく海一くく

一 源氏供養おこたもてはも小物もて也是い前

一 くんをたあー面おはきるる子あありあふい

あわりうれ面新いきのふくーきういよーまも

かつー縁いとりの依なり

一 清お能の事一大都考人の清おのけいーま

一 考人の清くーへいをゆくつけくいーあふ

一 志そくあひあーたふいわうおかきとろくよ

一 考人をうやまひころふせいをいよもちま

一 考人をあててくへりくわいのくーの清あり

一 考まやあとしてくあいつのよい上面乃くへ

一 むきまると仕舞ありとろよとも清あふと

一 是坂まけん也か積のか別ゆる清よ渡るへ

一 是才一清おの能のんお也是拍子たらくきんよ

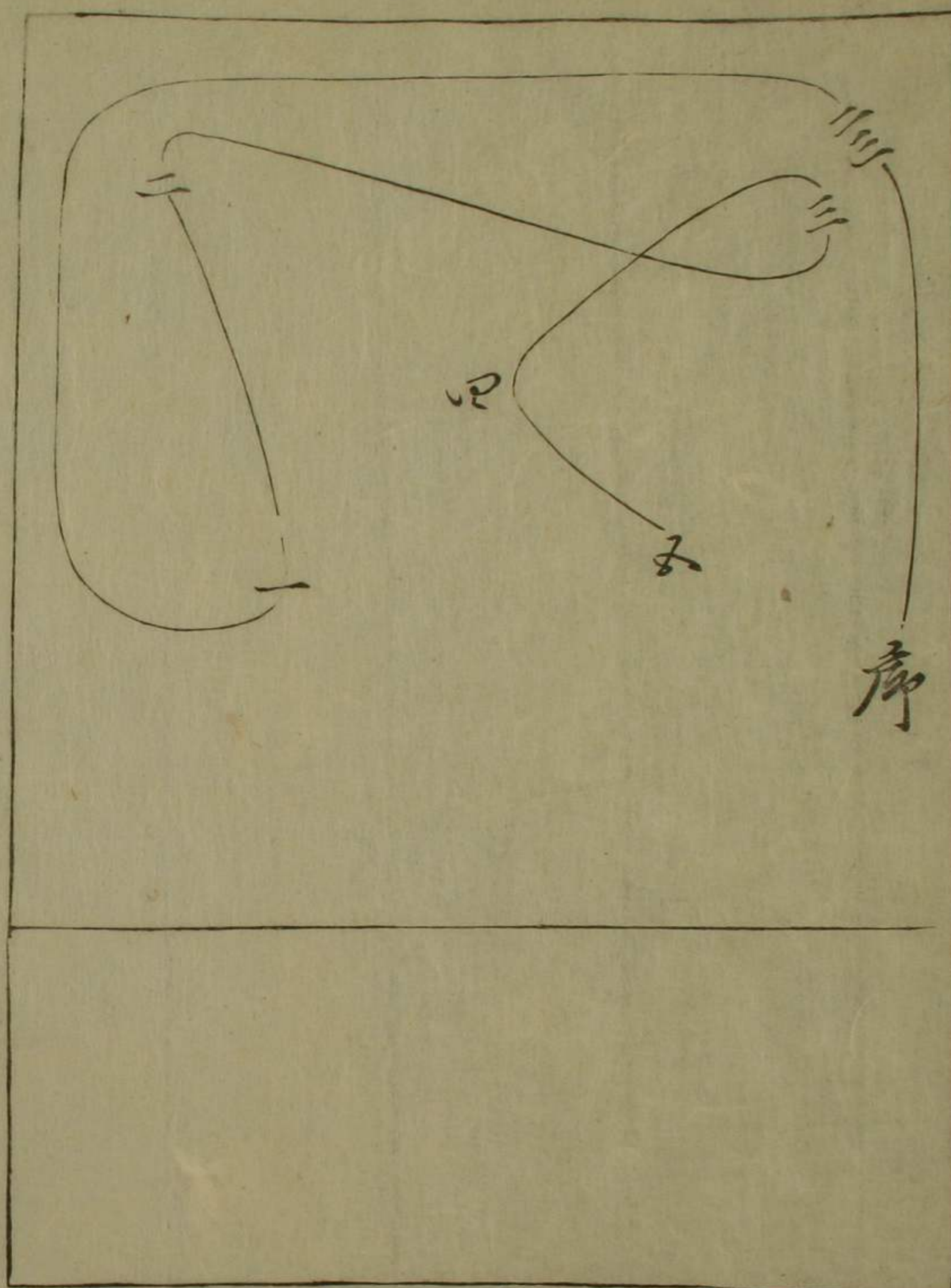
あむる通ふなり考人のうらへうらむむき
 りるり同お也熱別つひ乃能くも上面へい
 ろをせぬ又依おの能くも大吏兼臺をせりて
 所おちうくまふ事ありそ時の離一大事
 なり大吏のとをさうり兼ゆく程たくさんよ
 ちやまへ一位ちうふる能く口傳あるへし万
 情お乃能流す心故つけくハ時よつこりて
 か米かんあ依物なり目きつまよいさるまて
 志のころけけ所おまて肝要なりきうへ所
 あひ乃あきのふをゆく組合んせんせん也
 二日七三日もまへりわろれのおをさうり
 返りくくふうてさうあひあきやうり

ころけけ肝要なり所お乃能よりきくらひん
 うらもそもあへさうあひ亭主へのさう合を
 能くその時由書あくるんあへかんせん也
 一 耶那のまうりりあふきわとりふところ
 枕よふきなり録むるこぬりりころ風情大
 なるわろれ時七目故あさうらば建いぬ築わろ
 目をふさく事ありひ也
 一 うんさん乃あくの事まうらをとめらとき
 笛乃席ありころの臺乃うんまて席破と兼
 たいをせりて破急と兼ろせい録乃姿と志り
 さ依也三匠を二匠よりへ一笛乃あひあり
 大吏もまににあへし十二匠のあくれまひ

序乃舞事何進一七三六のれ世

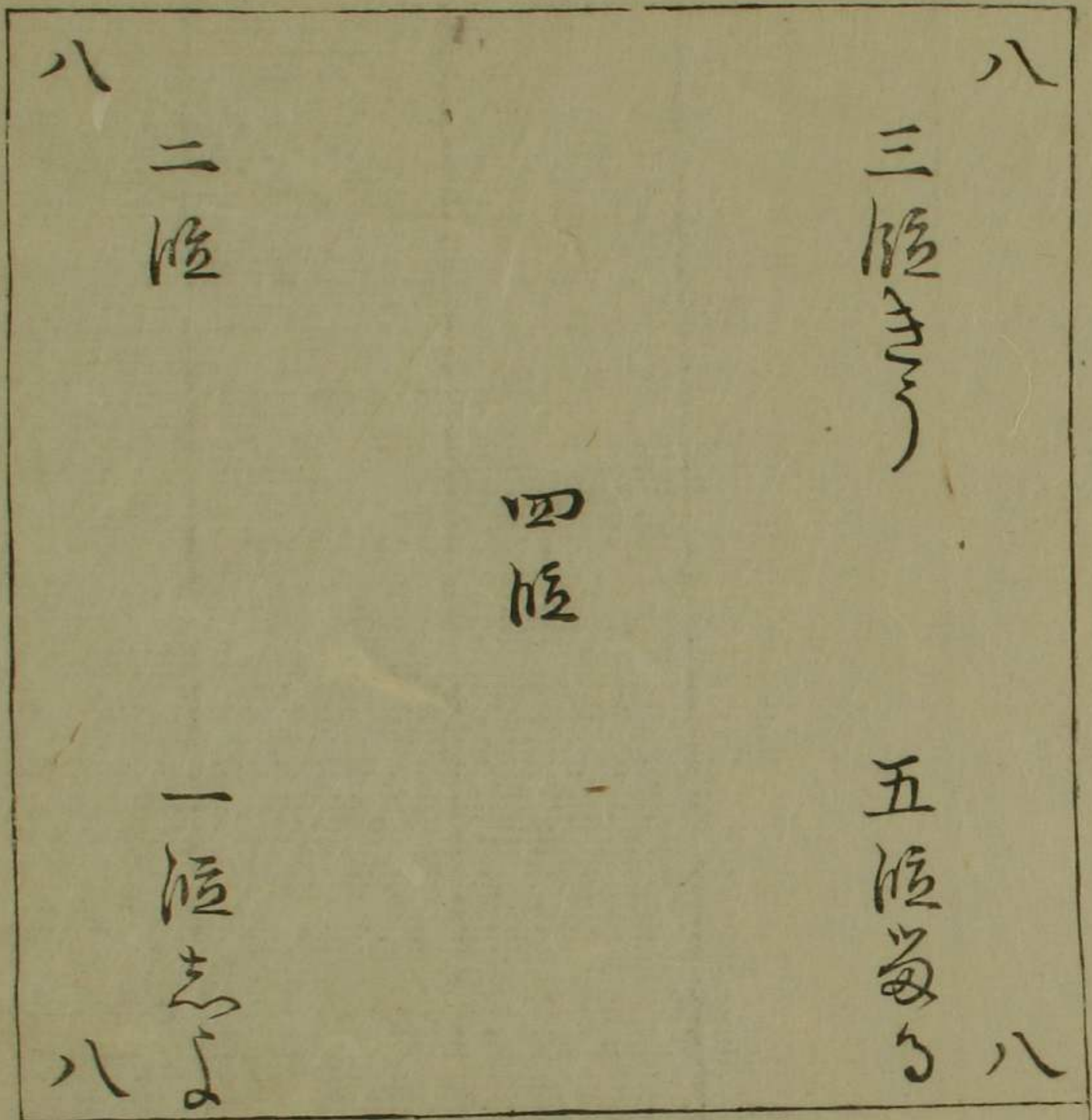
細

芭蕉并筒



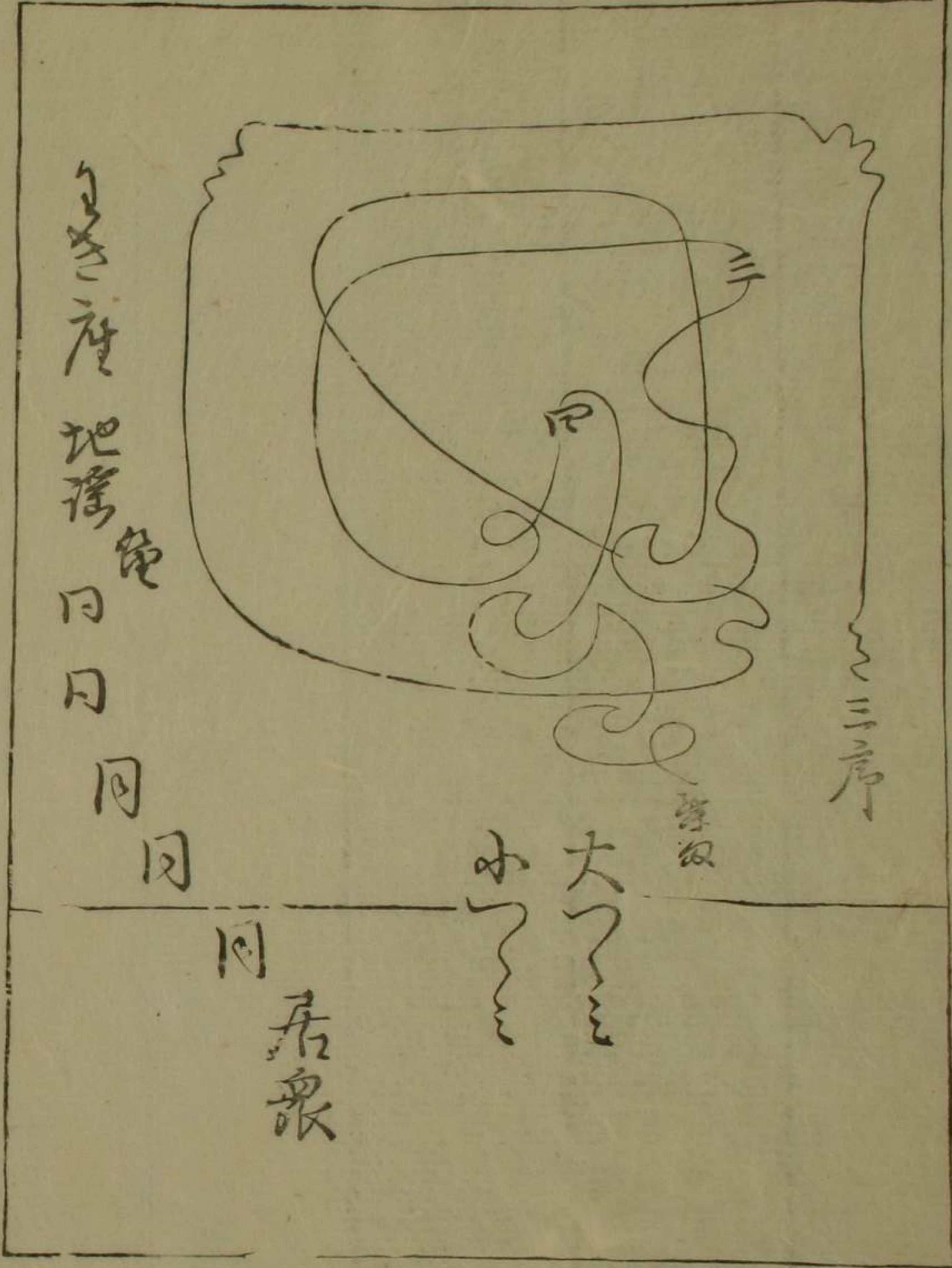
夕う介

舞の宮
 二人物
 言安
 東水
 左一介
 班女
 定家
 仁口
 朝う介
 うめ
 哲言新古



和

綿木
 松野
 小河
 正行
 安達
 但あこ
 久大聖
 舞とて
 舞の心
 おちん
 位ハ同
 物也



子のさく乃破の舞

舞か取能子よの

三位
↑
一位

四位

居座

二位

一 簾のうちよりたちとりの事ありこまじり
 けいこもてぬかして自然のさうあくひなり
 大更の上よりさうをあらうさうらん人のなが
 りぬる也さう人難と下よりまて申すなり
 うう上よりさうひもてまてものりは舞も
 およあまこちと大更に物よりさう時より物
 なりたると柳乃春の風よ一ゆもまもてさう
 とさきあひけううさうさうさうもたをや
 うふさうり志家をあらうせしりさう時をや
 大更のさうりぬせいでいを入程のり立てり
 ん物よりけなるたかりさうまあこをふさく物
 あり同をふさきぬさう志はまかりあり
 さうさうちまうさうたをやうたの物也さうこめ
 あけうさうさうらういあさうさうさうさう
 すうさうさうさうさうさうさうさうさう
 物也さうさうさうさうさうさうさうさう
 のりさうさうめをふさくさうさうさうの秘
 かりさうさうひなり

一 まくきいの習ひ女の教いまくきいのさうり五尺
 かととも魚さうさうさうさうさうさうさう
 きさうぬへさうさうさう狂女いまくぬへさうさう
 序破意よさうさう
 一 さう物さう三尺さうさうへさうさう
 一 鬼むきいまくをあらうとやうさうさうさう

あり乃ほめきくくひさのちちちくひの
 持やうもくをあくゆるちかまんとうけくち
 うき志る一侍る也けまき殺子よりかたとひ
 一の才子くちとりよともみまへくひもん
 繪圖を見うてもかてんゆきんひあくけ
 みくゆくく人い是う秘書しと不審をかく
 きをゆつておくとひり連も目乃おれ事一也

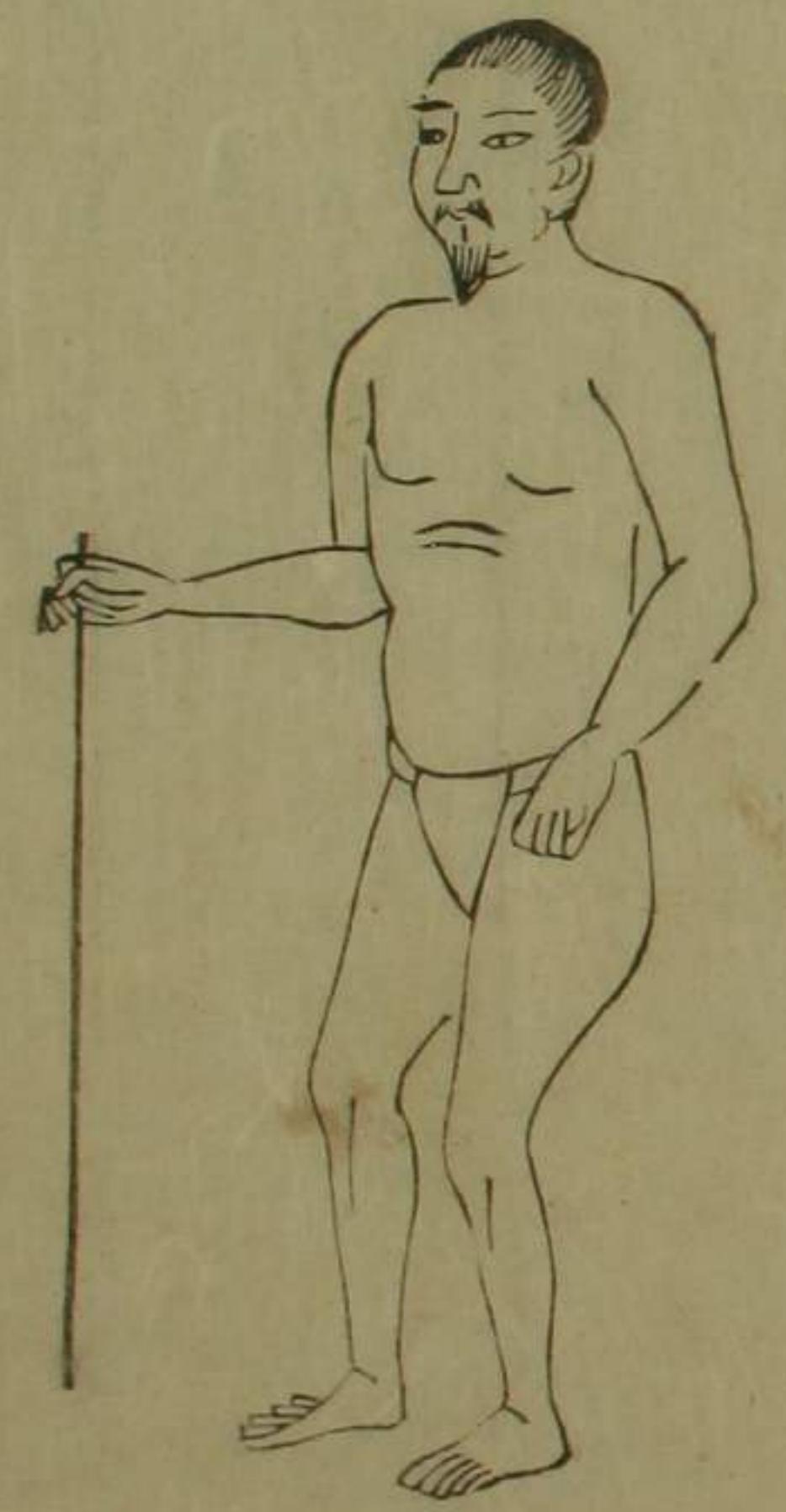
女居乃志いよわらとほくのめむたのよとだて
 ころあれひこのゆみて神を侍てわりうりたの
 ていありころりあひんよなくこいんあせし
 兼とせはくあきいんあひんあひんあひん



とて家のなほくもあまをちり可也... 扇とたてし持志也の心
めしふ方乃もよふあれし... 上よりありぬのりすそ... 一帯の
ろんとし... けいせいの... せき... 途切... らん... あり...
り... の... あり... せき... せき... せき... せき...
り... あり... せき... せき... せき... せき...
舞あり人可ハ物... の... あり... あり...



けいせい... せき... せき... せき... せき...
けい... せき... せき... せき... せき...
せき... せき... せき... せき... せき...
せき... せき... せき... せき... せき...



せいのたぐひいふ田のやうに
ほろろひやうめのもゝ紐ひこ
面をすくうかりとせ
乃身よりハぢひらりすゝいぢふ
それ心持ある



老女はえのつきやうくらのと一せよれいのはええハあつて目
くらのほろろとらきへる老女もろちやそはええの神
あまきえもねろくも持物あつたはたあつては

老人在り
老女も向ふ



老老五

五

何くの所えのほきかゝりぬとては之のなとてなり
くは但し何れもたのよに物めいたまの
とてはくへとてはたりの母の物や



百方の作り世外女物狂乃きりぬのとてはつせりつ
ろいすくすはたもたのせきりぬとてはつせりぬ百物狂の
さくむのとてはたのたおんかまやとてはつせりぬ
しあまの念佛のやとてはつせりぬとてはつせりぬ
たのまをたぬきとてはつせりぬとてはつせりぬ
とはつせりぬとてはつせりぬとてはつせりぬ
とてはつせりぬとてはつせりぬ



いしつゝとひやくとせとておん
 女房乃とて作りののこく



鬼又ハあゝとて毎々みるるひも大さひてまゝとて
 の所能くのうけとて作りのおんひやくとておん
 とてけひとて作りのおんひやくとておん

ひやくとておんひやくとて
 おんひやくとておんひやくとて
 おんひやくとておんひやくとて
 おんひやくとておんひやくとて



ひやくとておんひやくとて

ひやくとておんひやくとて

ひやくとておんひやくとて

男形よりのかげや



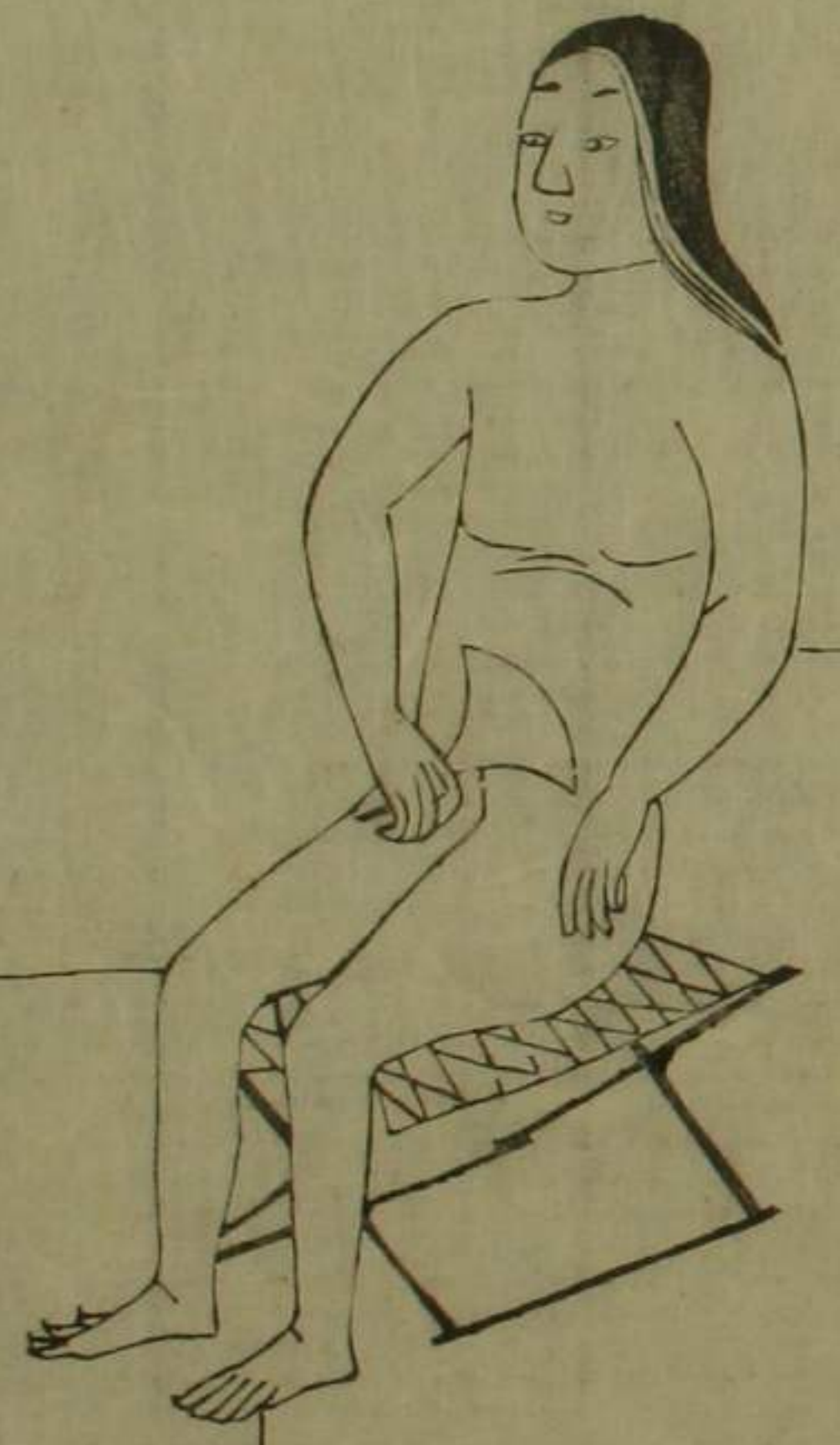
むらぎより二寸あまりのかげや

ひさのちきをえりり但
ひやくとさくくさねり
せはくしてより

三編

楊子如

かましの繋の結何れも
はくし作りて如く



むらぎより二寸あまりのかげや
しん女のあまりひちつさくさ
尺あてり又むらぎより二寸あ
まりの結きつあまり二寸あ
りむらぎより二寸あまりの

むらぎ
七寸りり

あまのむらぎより二寸あ
まりあまりのあまり
とくこりたるハツクあま

菴卷五

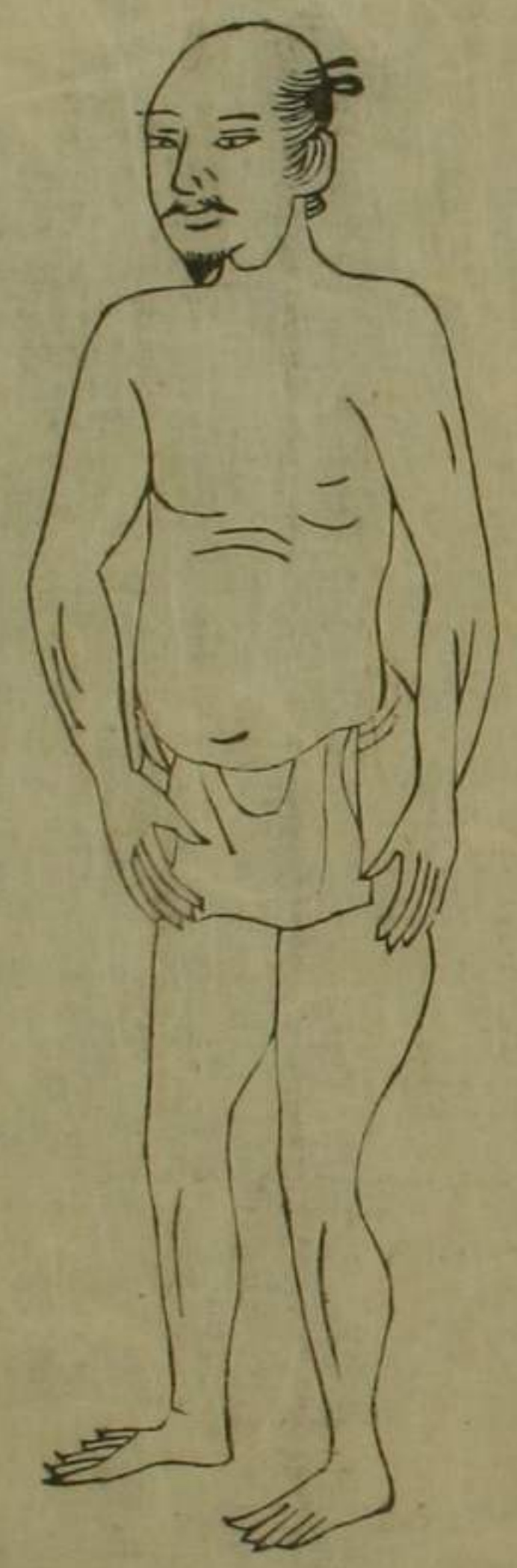
此人身家の後れはるのゆりおんはあや
 心まゆりひまよこふもせんりこんはあや
 知よ又ぬむとまあうこふまよりのれま
 りまらありあり



此ら多に付へひらあま
 約りのいほよさあま
 ちまよんあま

此ら多に付へひらあま

こく作りせあり人歌



めびと作りのあまらうこく
 ひまよすりこふもせんり
 ちまよんあまらうこく
 うまよんあまらうこく

心を覚るたを覚る時い右をとは横よりわら
いで右右をとは又下横みはときい上横見る
横より右をもち下をみまめは横よりよよせい
ありていもまへうへをみるとりあ可うへ
見下を見るときは見えたりあ可もあひ見
見くへい志まひよよせいあき物也そ上めんよ
ひきあひあき志まひよよせいとせすて見とあ
あきもの也是あひひなり熱刻のふと戸いめ
片うひよきいあ事一也つりあきも目行ひ
志不ういみせ事かんよう也あきく不割
いうけへ一目行ひのさう大形めは
またる仕舞もまめりりひひよよせいあへ

またる時い右へひよきあへまたる時いひよせい
ひよきまわりうへい仕舞志がういあは
よせいありあへまげこといあ可もあひまわり
たへまたるといあ仕舞よままへまわりうへ
仕舞もうていあまわりあせいもあき志まひ見
くはき物也

一 つりあき乃仕舞ももま文句あてするい文句あ
あまね物あり字二の三のあまへよまはれい
年のものいこの時仕舞あまもの也あきときも
二字三字あまへまへあきさういあきとりあ
目よああうる物ありあきとういひよりあ時
目よあをあてあきさうい文句あきてあり

手あぶ海ものなわ月を見て花をうてとり
時をき字はあぐりみまひ花を見る也字二三
三ツまへくしとていよきころよりひり

あひら物なり是をひひなり秘事也
女は拍子をあむ事たぐあまぬ物也何の
能も拍子いきひきまてあむ也是きのふそか
なわくふわう人のうききんぬやうり
牙なわのくつまんとぬ様ふむく熱牙を
ゆわうけあくくたふむる女は秘事とん
こき牙一きふなわのた

一けくわさ流うぬわきと云るくまきつりまも
る乃乃文句よまへくわき乃仕謀は肝要也

目つけのまは是一大事乃秘事なりわ
一花を見るめつふも物ゆうく執心をあて
ころろをとめてみるくまきんが乃人を見る
めつひ回あ

一庭の花まらきの屯あといちかく見るへ
みく一のまき花をい故あるく口傳
花かころもさうりなる花ちりころあとの
見やういつけちうかへく口傳

一月をみゆめの事秋の月いつうおもふく
たもころく見るなり冬月いあまゆころを
つけ執心故あまへく物すきまきころあ
なわ山乃端の月いつよもとをくくとあむる

まちえそくまてくめつ〜きあるいそく人
一 八月のつゆも乃くわねと志くあつる風情
こゝろけりんも〜也

一 思ふ秋の月あとい右の心もちよちうひう
め〜く月を思ひうる心付也

一 臘の月雲居れ月三ヶ月を明乃月乃こまは月
いほまも心付る口傳

一 くもりうる月の川くやうんと定めす〜て
うわ〜ひと海へし

一 海上よりうる月あより海を月まゝ水坂見そ
さく月を見ゆるあ〜ひ也ほき坂みてあをい
見ぬものなり

月花乃見やう大形めは

一 鬼祓のめ所くひうみもほりく見そ〜人乃
めつうひちうあ〜し女あといつよもゆあ
志んよ見る事あ〜ひ也なき里ちうきさ
海よりやまを見る心より海坂見るいつま
め流くひ口傳

一 月のあけゆくあとの山見てとつよ取乃
仕舞人〜にゆりと赤坂みは是ひら事也
あきゆくゆとつあせんあ〜あをみまの明り
あとのせんありま〜経書堂いこまあとの見
やうつよま乃時も上面いつつ〜へもあま
〜たを見ゆるなり清あへま〜り〜いひ〜

たりめいどのたぐひ物却し能をいやくは人の
 名所旧位をとれさ角ちうひもをねやうり
 こちつけみるとちをいよくれがえまここぬ
 とくあひ人またつひくくくあけ肝要也
 老松よひくわまらまんの里んたうあわと
 けふ取たま乃志をいふ志よりの旧位あわ
 とつふ取いたま乃ひくわをみは事あひ
 あり子細い社壇の左右乃ことまきい大夫の
 太い社壇乃ひくわ大夫のひくわい社壇の右
 ありあひひ也山婆れまひくけりまと云取い
 志こ取見答よひくきとつふ取い人を見は
 皆人ことふ巖とりんの上をみる答とりん

下取見るあひひゆりさ人乃すりるなり
 答よしい又下をみるあひ巖取みはまてい
 下を見るまよりては見やう也か積のたぐひ
 能ことおつ建まもあまともた積よりきこそ
 久いそてもあく人取まきとあて百番二百番
 をも分別まへしよろはよわさるへし

一あつき能祚帝釋たとい面うけぬおさあき物
 あとみさせぬものなわましくくこのふ
 あまやうなる物有り天女楊考妃あはめん
 うけぬあ流あともくゆくく

一有威高お直のころあまあても志やめん
 お應志くろ小神流あをくへしはい流あわ

をとめ面成うけあへ、苗流いおかひうつゝの
ひんをえたりあらかも、むよん本和かりい
志屋くまをかほくなり

一大居士き男居士き僧わさ山伏服陰陽原をとり
わき人あき人舩頭山賤をとりつゝのわき
あわりれくこのちもちかんよう也つひ乃
んうけうましく乃大辨を思ひ出くかあう
よく志よすうもの也但又いとくあまわり
すきうらも見ふくき物なりかきん肝要也
けいこ由りうていななりかきんけいこ考れ
たりあまよあり

一いのりわき山あり乃いのりちうあ陰陽

光僧了僧たもの初里ちうあ陰陽の初里
俗辨あれいこれうへあるあ山ありの
いのりいほよくあくとおろろけよ初る
る貴僧了僧のいのりいおも真よいのり
あ是あひなり

一僧居士のい持座主阿耨梨僧部あといひの
僧ちうあおちいもちるまきく乃位より
分別をへし

一つひれ僧居士いあり猿僧住取乃僧のあり
くたり乃僧者いもちちうあんちうめ
みやこよゆく僧い持多し初り口傳

一男わさ藤倉屋の流り代女侍あつとく名案

わき又何乃あより一と名紫わき又船頭
本つりすもやき山りの里人りやう此たぐひ
つりまきも心持おきまかを海也勿論志しそ
大きよ替へし代友あともあのはいまく乃
うち志何く小揚おりのをもくくあゆ
けたく名紫へし何のあより一と名紫脇
代友何れりすうりす一あきくはたへし
里人なりとたがきよちふへしまくきの浅く
うろくとい何のあより一と名紫
かかうかひまくきい乃かぬひもあし名紫
きく名紫たきつと打打けそくわくよ
うふりやしき物乃名紫いひう一ひよ

うちあけし事しこのあひ也上たりき人
貴僧言僧のあよりとりうたわくたきと
去り抄あきし時ねえのこえあやてやうそ
かのあし
一俄乃能は所聖ありとも我身は相應志し体
乃るうちあしせひひとのりり乃るをよて小袖
あくもあし製末もてもあし志し去まのこあし
似合さたうくあく藝技むるりくく斟酌
志へしそ方の藝事かよ見ゆる物なりあてく
斟酌志へしきりあう考人の清り意なりい
不及是兆ん左様乃とらあものを志しそ海人
うと見し今の能あてきあしり物なまうね

人の批判也なり拙行以わのるをもちありは
うわらるるのあまぬまてうちんつて熱い事か
らもきこえまききなり

一定家乃はのち直乃可むりいつてこのの
名を衣もえきれちやうきんをきこりたり
哉は花傳書をけくきりたりこれにむり
さき乃ちやうきんよきこむ子細い定家乃
大夫ハ式子内親王あてまきまは儀乃儀よ云
あまの雲井乃屯の袖むりて儀よよう人を
あるとつて儀の儀なり式子内親王つりへ
禁中より入る時のありき儀をば僧よ亡くと
りりよつてきりてまきふてけらせんまきり

まきいむりさき乃は衣可然ト

あつりり乃めんちこめんをかきとたよき
こわせりよは中おれ面かくはまきひの事
なりあつりりいまき元服したまひき
ゆへよむく目んの大夫と号せりりゆへよ
よりて見面儀もちつる也

能るるまて一毒のあひの舞臺よりもかくや
より色一切出入せぬ物なりかく屋へあひ
より出入粗玄乃るより物なりたし大夫
中入を能り拙の中へ入かく屋へりりぬ能
物なり時ハ大夫のきりゆる面いきりなり

